

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101052
法人名	社会福祉法人平成会
事業所名	グループホームジェントルハートみつ
所在地	松山市梅田町4番35号
自己評価作成日	平成27年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とのコミュニケーションをしっかりとるように努めている。ご家族様と利用者様とのつながりを大事にし、出来るだけ、ご家族様と利用者様との交流が出来るように努力している。毎月のご利用者様の様子や、ケアプランの実施状況について、文書化してご家族に送付し、日々の生活について理解して頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ジェントルハートとは「優しい心、寛大な気持ち」という意味で、この事業所のケアには名前そのものの「優しい気持ち」が感じられる。理念にある「その人らしく」を実践するためには、自分たちが「優しい気持ち」を持っておくべきだとの法人の信念なのだろう。日本語で「優しい気持ちで」にすると、高齢福祉ではよく見かける少々平面的な表現になってしまうが、管理者や職員との話し合いの中でジェントル(Gentle)は、謙虚に上品で柔らかくとの意味も含んでいるように感じられた。また、管理者は地域の社会資源活用に意欲を持っており、地域と共に利用者を支えようとしている。運営法人は広く福祉事業を展開しているが、一つ一つの事業所が地域と共にという意識を持ち、利用者の生活の質の向上を一番に見据えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームジェントルハートみつ

(ユニット名) 琴音

記入者(管理者)
氏名 浅原 健二

評価完了日 平成27年5月23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念とは別にグループホームの理念・目標を全職員と一緒に考え、それぞれのユニットに掲示し、日々、共有と確認ができるようにし、それが実践できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念を踏襲しながらも、「ご利用者様の尊厳を大切にし、個別支援に努める。」という事業所独自の理念を掲げている。小規模特別養護老人ホームと併設しているため、グループホームの独自性にこだわっていることも理念を作る上で大きく影響している。管理者は、理念にある「その人らしい暮らし」を実現するためには、利用者を理解することから始まると考え、利用者の思いや意向を把握することに努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の小学校との交流や、地方祭などの行事を通じ子供たちや、地域にお住まいのかたがたとの交流を図ってまた、施設に子供たちを招き、オープンな施設作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 港の商業地域の一角に事業所があるため、利用者が日常的に近隣住民と交流することは難しいので、イベントでの交流が主になっている。事業所の一階に多目的ホールがあり、複合施設の利点を上手く活用しながら、地域との交流を深めている。近くに小学校があり、運動会に招かれたり、事業所に来てもらって利用者と交流している。福祉施設運営の経験が蓄積されている法人であることも関係しているが、事業所は開設してまだ2年とは思えないほど地域と繋がりを持っている。</p>	地元を盛り上げようという気風がある土地柄に事業所は立地している。小さなイベントを色々な場所で不定期に企画しているので、利用者は地域の住民という立場で参加して欲しい。会場にはいわゆる福祉的な配慮は少ないかもしれないが、住民配慮という優しさは溢れていると思われる。地域の盛り上げに利用者が一役を買うというのも地域と付き合うには必要である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域貢献は、当法人の理念でもあり、地域や学校の行事等への参加により、地域の方との交流を深め、認知症への理解につながるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、利用者状況や行事の実施や、予定につい て報告している。参加されたご家族や地域・行政の方のご意 見やご質問を伺い、今後の参考にさせていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、2か月に1回家族、民生委員、市職員、地 域包括支援センター職員の参加を得て開催し、利用者の状況 や活動報告を行って、意見交換をしている。小規模特別養護 老人ホームと合同で開催しているが、地域の委員には、各施 設の特徴、ケアの視点の違い等を説明し、理解してもらった 上で意見交換を行っている。会議の雰囲気には、少し緊張感 が見受けられ、利用者のケアに直結する議題が少ない傾向も あるので、参加委員と利用者の距離を縮めるような企画も必 要と思われる。</p>	<p>運営推進会議の中で、消防署職員や地域防災の方々 と利用者が面談することや、地元まちづくり協議会のイ ベントの説明会、厨房で作っている利用者の食事を試 食してもらい意見を聞く等、利用者の生活が活性化す る議題も検討して欲しい。消防署等に事業所や利用者 を直接見てもらうことは、避難訓練に現実的な視点が 加わることが期待できる。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃の業務における疑問点などは、松山市にその都度確認す るなどしている。地域包括支援センターとは、空き情報の連 絡や、三津浜地区のグループホーム連絡会への参加により、 情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所を運営している法人は、福祉事業の歴史が長く、行政 からは地域福祉の一環を担うという信頼が厚い。事業所は複 合施設であり、近隣地域には関連の介護保険事業所も数多く ある。そのため、法人全体が行政との関わりが深く、事業所 も利用者のことだけでなく、地域の福祉全般の問題に共に取 組もうとしている。また、市担当者とは、管理者だけでなく 法人理事者や施設長も関わりがあり、信頼関係は堅固である と言える。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束に関する研修に積極的に参加し、身体拘束への意識 を高めるよう取り組んでいる。さらに、「不適切ケア」 チェックシートを活用し、個々の職員が日頃のケアを振り返 り、身体拘束につながるような言動がないように努めてい る。</p> <p>(外部評価) 法人全体で身体拘束ゼロに取り組んでおり、事業所内でも定 期的に勉強会が行われている。特に言葉による拘束について は慎重で、職員は定期的に「身体拘束チェックシート」や 「不適切ケアチェックシート」を活用して日々のケアを振り返 るようにしている。つつい日常化される声掛けだからこ そ細心の注意を払っている。複合施設の建物の構造上、エレ ベーターにテンキーが導入されている。そのため、職員は利 用者の自由な行動が妨げられないように気を配り、見守るよ うに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加し、どのようなときに虐待が起きるのかを学び、虐待防止に取り組んでいる。虐待につながる不適切なケアについて3ヶ月に一度チェックし、虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について、学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。さらに、ご利用者の権利擁護についての知識を深めるよう取り組んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用申込や契約時に出来るだけ丁寧な説明を行い、その上で、ご利用者、ご家族からの疑問や質問を伺い細かく説明し、ご利用者、ご家族にご理解、納得してご契約いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、匿名でご意見をいただけるようにしている。また、面会時や、電話での連絡のときに、日頃の様子を説明し、ご意見やご要望を伺っている。 (外部評価) 比較的地元出身の利用者が多い事業所であるため、家族等の行き来が多い。管理者は、「本人が目の前にいると言い難い」という気持ちに配慮し、居室のある2階ではなく、1階の多目的スペースで家族と話しをすることも。「何かありませんか？」だけでは、家族は本音を言えないという状況を考え、家族に寄り添った取組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度ワーカー会やサービス向上委員会を開き、提案などを聞く機会を持つようにしている。職員の意見は、次月の活動や、今後の運営に反映させるようにしている。 (外部評価) 管理者も計画作成担当者も介護シフトに入っている。夜勤はしていないが、介護現場で職員と共に利用者のケアを行っているため、管理者も利用者を肌で感じて介護現場を知ることができ、職員と協働意識を持つことができる。特に、職員と協働意識を持つことで、話し合いの際、職員と同じ立場に立ち、忌憚のない意見交換ができています。食事中、職員と管理者が話し合っている状況が見られたが、利用者の生活を支えている同志という雰囲気を感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回、職員個々の努力、実績を評価し給与などの賃金アップなど、努力が反映される環境や条件が整い、やりがいを持って仕事が出来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間活動計画の中に、内部・外部の研修の予定を入れ、職員が研修を受ける機会を確保し、技術や意識の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が、地域のグループホームとの交流会に参加し、意見交換を行いネットワーク作りに勤めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面談を行いご利用者の困っている事や要望を出来るだけ細かく聞きだせるように努めている。入所後は、こまめな声掛けや、他の入居者との関係作りに関わることで、ホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時や面談の時にご家族が何に対し、どのように困って入所に至ったか、ホームでどういう支援を臨んでいるかに耳を傾け、それに応える努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今まで利用されていたサービスを入所する事で切ってしまうと引き続き利用できるような柔軟な対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の能力に応じ、掃除や、食器の片付け、洗濯物の片付けなどを職員と一緒に頂く事で、共に生活している関係を作るように努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の必要な物品などの買い物を家族様にお願いし、面会の機会を作るようにしている。入所後も、以前から関係のある地域との交流に参加できるようご家族にも協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前からの交流のあったかたがたが、気軽に訪問できるように、ご家族にも協力をお願いし、来所された際には、ご本人と気兼ねなく交流が出来るよう場所の提供や雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 利用者の友人や近隣者が事業所を訪ねて来ると、おもてなしを尽くすことで馴染みの関係の継続を支援している。事業所の近くに住んでいた利用者には、外出の際に自宅に立ち寄り、入居前に囲碁クラブに通っていた利用者には、継続して参加できるよう支援している。また、家族の協力を得てお墓参りに行く等している。事業所では、利用者が新たな馴染みの関係を作ることができるよう、取組みを始めている。	管理者は高齢者の介護経験が長く、利用者にとって事業所自体が馴染みの場になることの必要性を痛感している。しかし、日常の業務を安全に進めることに忙殺され、それを具現化する方法を見出せていない。幸い小規模特養ホームと併設であり、施設全体を大きな長屋と見なし、それを活かした近所付き合いができれば、利用者の馴染の場を広げることになると思われる。利用者が心とむ場となるようにこの事業所ならではの取組みとなり、利用者には新たな人間関係が構築できるよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士で、リビングや廊下のソファで話をされたり、一緒に散歩されたりして係わり合いをもたれている。また、ご利用者様が一人で居る時は、孤立しないよう声掛けしたり、他の方との間にはいるなどの支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人の状態に応じ、特養への移行を支援したり、入院の場合は、見舞いに行くなど、関係を断ち切らないように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から、ご本人やご家族の意向を伺っている。ご本人の意向が把握できない時や、ご家族から特に要望が無い場合は職員間で、どうするのが最も良いか検討し対応している。	
			(外部評価) 「その人らしく」をケアの中心に据え、利用者の思いや意向を把握することに努めている。利用者をよく見ることも重視しているが、利用者同士の会話にそれぞれの思いを発見したことがあり、それ以降は、利用者を見守る中で利用者の理解を深めることも大切にしている。職員が利用者側に立って言葉の意味を考えることで、援助の基本を改めて感じながら利用者理解を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談などでこれまで生きてこられた過程や、職業などの生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り、記録等で本人の一日の過ごし方や、心身の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人やご家族から、今まで困っていた事や要望などをうかがうと共に、職員や、家族以外で関わっていた方からの情報も参考にして介護計画を立てている。</p> <p>(外部評価) 介護計画に関する書類整備やその活用方法などは運営法人の豊富な経験があり整備されている。介護計画作成担当者は、本人や家族の意向を確認し、職員と話し合っって計画を作成している。担当職員は毎月モニタリングを行い、3か月に1回カンファレンスを行い計画の見直しをしている。24時間生活変化シートで、「記載がない時間帯にも問題を見出すようにしている。」と言う管理者には、プロの意識が感じられる。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 24時間シートに本人の様子や行動、心身の状態を記録し、職員間での情報の共有、ケアプランへの反映に活用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) グループホームだけでなく、併設の特養とも連携し、一緒に行事を行ったり、分かれて入所している家族への面会などを行って頂いている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域にある小学校との相互訪問、消防署との避難訓練への参加などを通じ、地域との交流を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族に入所前に医療についての要望を聞き、それ に沿って対応している。以前よりかわりのあった医療機関 にも継続して受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医を継続利用している人や事業所の協 力医に切り替えた人、専門科は別の病院に通院する人等、利 用者の受診形態は様々である。管理者は、病院や家族と情報 を共有しながら、利用者が適切な医療を受けることができる よう支援している。また、協力医は月2回往診して診療を行 う他、24時間緊急体制を取っている。さらに、小規模特別 養護老人ホーム兼務の看護師が常時勤務しており、日常的な 健康管理や緊急時対応を行うため安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームには特養と兼務する看護師がおり、健康面での相談 や、医療機関との間に入ってもらい、適切な医療、看護がう けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院されたケースでは、入院時の医師からの説明を看護師と 管理者が家族とともに聞き、入院後、家族から状況を伺いな がら様子を見て、退院・再入所の準備を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナル対象の方がおられる。早い段階から、ターミナル ケアの方針にそって、家族との週1回のカンファレンスや、 ターミナルケアプランの作成・実施、ターミナルケア記録に よる個別の状況把握、医療機関との連携に取り組み、万一の 場合の対応も決めている。	
			(外部評価) 事業所は、経験豊かな法人が運営しており、信頼も厚く看取 りに対する家族の期待も大きい。事業所には、「看取りに関 する指針」が作成されており、家族の要望に応じて今年初め て看取りを行った。職員は、家族の協力も得ながら、協力 医、看護師と話し合いを重ねて穏やかな最期を看取ること ができた。現在も終末期ケアを行っている利用者がある。事業 所には小規模特別養護老人ホームと兼務の看護師と協力医が 24時間オンコール体制をとっているため、緊急時も適切な 医療を受けることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故、感染症、急変時の対応マニュアルがある。緊急時に適切な対応が出来るよう、確認している。特に感染症対策は、定期的に実地訓練を行い、全員があわてず適切な対応が出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識の高めるように努めている。防災訓練への参加や運営推進会議等の場を通じ、地域の方との連携を図っている。 (外部評価) 避難訓練は、災害時避難対策マニュアルに沿って丁寧に行われている。訓練は消防署立ち合いのもと、小規模特別養護老人ホームの利用者と合同で実施している。地域住民とは、運営推進会議で話し合いを始めている段階であり、今後協働して計画的に実施しようとしている。事業所の隣に消防署があるので、災害対策には恵まれた立地である。消防署から消火訓練に建物を使用させてほしいという要望があり、近々実施される予定である。こうした取組みは、消防署職員に事業所の日常を把握してもらう良い機会であり、万が一の場合の安心感に繋がり、事業所としても期待している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グループホームの理念に「尊厳を大切にすること」が掲げられている。言葉遣いについても、不適切ケアチェックや自己評価チェックシートで定期的に自らを振り返り、誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。 (外部評価) 訪問した時に、リビングには穏やかな空気が流れていて、利用者の日常に安心感があることの証しのように思えた。職員は、利用者に名前呼びかけをしていることが多く、その響きには、利用者との距離を感じさせない心地よいものがある。利用者は、「は～い、何でしょう？」と笑顔で返事をしている。人権保護という堅苦しい言葉ではなく、「大事にしている、されている。」というほのぼのとした人の温もりが感じらる。職員は、定期的に「不適切ケアチェックシート」を使って、利用者の尊厳を損ねるようなケアを行っていないか自己チェックを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝食時の飲み物を希望のものにしたり、10時と15時の飲み物を、本人に確認してからお出しするようにしている。希望を聞く時も「何が良いですか？」と、出来るだけ本人の希望を尊重できるような言葉がけをするように気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各ユニットの目標に「自分らしく」や「その人らしさ」を掲げている。入浴なども、本人が希望しなければ、別の日にするなど、出来るだけ、本人の意思を尊重するように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分用の化粧品を持たれて、お化粧品をしておられる方もおられる。衣類も、本人の好みを出来るだけ尊重しながら、気候や季節にあったものを着ていただけるよう助言を行うようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は厨房で調理しているが、カレー作りや、おやつ作りでは、それぞれの利用者様の能力を生かして参加して頂き、出来るだけ職員はサポートを行うようにしている。 (外部評価) 食事は管理栄養士が献立を作り事業所内の厨房で調理している。栄養管理が十分できていることと、施設内で調理をしているので、出来上がったばかりの料理を味わえるという利点がある。職員も食事時間に利用者と一緒にゆっくり関わることが出来るため、会話を交わしながら和やかな雰囲気、共に食卓を囲んでいる。また、カレーの日等を設けて、週に数回はユニットのキッチンで昼食を作っている。利用者も野菜の皮むきなどを手伝い、利用者の生活にメリハリを付けている。利用者にも職員にも無理のない支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量をチェックして毎日どのくらい摂取できているかを一人ひとり記録し、確認している。食事のペースもそれぞれの方にあわせ、せかしたりする事のないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、きちんと歯磨きが出来るよう支援している。歯磨きをしようとする方には、声をかけて自主的にして頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 本人の訴えや、様子観察を通じ、適切にトイレ誘導が出来、失敗を減らすように努めている。立位や座位保持が出来る方は出来るだけトイレでの排泄を促し、安易にオムツを使用しないようにし、使う時も夜だけにするなど、どうしてもオムツでなければ対応できない方以外は、出来るだけオムツは使わないようにしている。</p> <p>(外部評価) 日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援したいという考えのもと、ユニット内にはトイレが4か所設けられており、歩行状態が不安定な利用者にも容易にトイレ移動ができる構造になっている。また、24時間シートで排泄のパターンを把握し、声掛けをしてトイレ誘導を行っている。夜間は安眠を優先するため、おむつを使用する場合もある。利用者のトータルな生活を視野に入れた排泄ケアができています。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘気味の方には、廊下を歩いたり、散歩をするなどの運動や、適切な水分補給などで、出来るだけ自然な排便を促し、どうしても出ない場合便秘薬を用いるようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 週二回入浴していただくようにし、入浴日は決めてはいるが、本人の体調やその日の気持ちで入浴できない時は、別の人に入って頂くなど、臨機応変に対応し、ゆっくりと入浴していただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 週に2回入浴ができるよう支援している。浴室には最新のユニットバスが導入されており、利用者の身体状況（麻痺側）に応じて浴槽自体を動かすことができ、様々な利用者の状態に配慮したバスシステムを選択している。また、小規模特別養護老人ホームには機械浴の設備があるので、家庭浴槽に入れない利用者も安心して入浴することができる。季節感が味わえるよう、ゆず湯や菖蒲湯などを用意して利用者が入浴を楽しむことができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ご本人の様子をみながら、休息をとって頂くなど、体調に合わせた生活リズムを考えて対応している。起こしっぱなし、寝かせっぱなしにならず、夜間の睡眠が確保出来るよう調整を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報提供表などをおき、確認できるようにしている。重要な薬にかんしては副作用について確認し、場合によっては、看護師に確認して飲んで頂き、状態変化の観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の性格や出来る事を把握し、人との関わりや、家事での役割を持っていただき、気分転換や達成感のある生活を送って頂く。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外部のサービス（ヘルパー）を利用したり、ご家族の支援を得て外出していただいている。ホームの行事として、あるいは、入浴の無い日の気分転換に少し遠くへの散歩を支援している。 (外部評価) 事業所の西側道路は車の往来は多いが、北側は通り抜けしている道ではなく、商店街や神社に通じているので、散歩に適している。また事業所の敷地が広いため、屋外に出るだけでも、十分に外気浴を楽しむことができる。職員は、天気の良い日はできるだけ利用者が屋外に出られるように支援している。また、遠出をする際には、福祉車両を含め併設事業所の車両を使うことができるので、大きなメリットになっている。	管理者は、職員の勤務調整をしても事業所ができる外出支援には限界があることから、地域にある社会資源を活用して、利用者がより多く外出できるよう支援しようとしている。そのためには、家族の理解を得ることが不可欠であると同時に、管理者自身が地域資源を把握しておかなければならない。日常業務を行いながら家族や地域の関係者との話し合いを持つことは、時間的に困難が予想されるが、利用者の生活の質が上がる取組みであり期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者様や家族様の了解の下、ご自身でもてる方には、お金を所持して頂いている。外出時は各自お金を持ち買い物をして頂き、施設内の自販機などで、ジュースを買って頂いたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族と話がしたいといわれるときは、出来るだけご家族に連絡し話をして頂いている。また、手紙のやり取りも自由にして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日清掃を行い、居心地のよい共同空間作りに努めている。照明の明るさを変えたり、窓を開けるなどして季節を感じていただく工夫をしている。壁のデコレーションも季節に応じて変えるなどしている。</p> <p>(外部評価) 事業所には天候に影響されることなく使える共用空間が3か所ある。リビングとサンルームと多目的ホールで、サンルームはこの事業所独自の空間で、広さ16畳ほどの両ユニット共用スペースになっている。ドアで間仕切られているので、家族等の面会時はプライバシーを守ることできる。前面ガラスの前は海であり、三津の花火大会の時には特等席にもなる。多目的ホールはリハビリや音楽療法等多目的に利用できるスペースになっており、地域交流の場としても活用されている。また、各階にはオゾン換気が完備され、さわやかな環境の中で過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 海が見える部屋でゆっくり過ごしていただいたり、ソファで他のご利用者様と話をしながら過ごしていただいたり、思い思いに自由に過ごしていただいている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に写真を飾ったりアルバムをおくなどして本人が居心地よく過ごせるようにしている。今まで使用していた家具を置くなど、本人が過ごしやすい雰囲気でも過ごして頂いている。</p> <p>(外部評価) 居室には前室があり、洗面台やクローゼットが配されている。居室との仕切りにレースのカーテンを設置し、廊下からは直接居室を覗けないようになっており、利用者のプライバシーへの配慮が感じられる。管理者は「部屋に洗面台があると、女性はお化粧をして出てきます。」と述べ、事業所がそうした空間や時間を大切にしている様子が伺える。部屋のスペースにゆとりがあるので、タンスだけでなくテレビや冷蔵庫等を置いて、利用者がそれぞれ思い思いの空間を作っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、浴室、トイレ、洗面台に手すりをつけ、出来る事を生かせるように工夫をしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101052
法人名	社会福祉法人平成会
事業所名	グループホームジェントルハートみつ
所在地	松山市梅田町4番35号
自己評価作成日	平成27年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とのコミュニケーションをしっかりとるように努めている。ご家族様と利用者様とのつながりを大事にし、出来るだけ、ご家族様と利用者様との交流が出来るように努力している。毎月のご利用者様の様子や、ケアプランの実施状況について、文書化してご家族に送付し、日々の生活について理解して頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ジェントルハートとは「優しい心、寛大な気持ち」という意味で、この事業所のケアには名前そのものの「優しい気持ち」が感じられる。理念にある「その人らしく」を実践するためには、自分たちが「優しい気持ち」を持っておくべきだとの法人の信念なのだろう。日本語で「優しい気持ちで」にすると、高齢福祉ではよく見かける少々平面的な表現になってしまうが、管理者や職員との話し合いの中でジェントル(Gentle)は、謙虚に上品で柔らかくとの意味も含んでいるように感じられた。また、管理者は地域の社会資源活用に意欲を持っており、地域と共に利用者を支えようとしている。運営法人は広く福祉事業を展開しているが、一つ一つの事業所が地域と共にという意識を持ち、利用者の生活の質の向上を一番に見据えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームジェントルハートみつ

(ユニット名) 鈴音

記入者(管理者)
氏名 浅原 健二

評価完了日 平成27年5月23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念とは別にグループホームの理念・目標を全職員と一緒に考え、それぞれのユニットに掲示し、日々、共有と確認ができるようにし、それが実践できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念を踏襲しながらも、「ご利用者の尊厳を大切にし、個別支援に努める。」という事業所独自の理念を掲げている。小規模特別養護老人ホームと併設しているため、グループホームの独自性にこだわっていることも理念を作る上で大きく影響している。管理者は、理念にある「その人らしい暮らし」を実現するためには、利用者を理解することから始まると考え、利用者の思いや意向を把握することに努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の小学校との交流や、地方祭などの行事を通じ子供たちや、地域にお住まいのかたがたとの交流を図ってまた、施設に子供たちを招き、オープンな施設作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 港の商業地域の一角に事業所があるため、利用者が日常的に近隣住民と交流することは難しいので、イベントでの交流が主になっている。事業所の一階に多目的ホールがあり、複合施設の利点を上手く活用しながら、地域との交流を深めている。近くに小学校があり、運動会に招かれたり、事業所に来てもらって利用者と交流している。福祉施設運営の経験が蓄積されている法人であることも関係しているが、事業所は開設してまだ2年とは思えないほど地域と繋がりを持っている。</p>	地元を盛り上げようという気風がある土地柄に事業所は立地している。小さなイベントを色々な場所で不定期に企画しているので、利用者は地域の住民という立場で参加して欲しい。会場にはいわゆる福祉的な配慮は少ないかもしれないが、住民配慮という優しさは溢れていると思われる。地域の盛り上げに利用者が一役を買うというのも地域と付き合うには必要である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域貢献は、当法人の理念でもあり、地域や学校の行事等への参加により、地域の方との交流を深め、認知症への理解につながるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、利用者状況や行事の実施や、予定につい て報告している。参加されたご家族や地域・行政の方のご意 見やご質問を伺い、今後の参考にさせていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、2か月に1回家族、民生委員、市職員、地 域包括支援センター職員の参加を得て開催し、利用者の状況 や活動報告を行って、意見交換をしている。小規模特別養護 老人ホームと合同で開催しているが、地域の委員には、各施 設の特徴、ケアの視点の違い等を説明し、理解してもらった 上で意見交換を行っている。会議の雰囲気には、少し緊張感 が見受けられ、利用者のケアに直結する議題が少ない傾向も あるので、参加委員と利用者の距離を縮めるような企画も必 要と思われる。</p>	<p>運営推進会議の中で、消防署職員や地域防災の方々 と利用者が面談することや、地元まちづくり協議会のイ ベントの説明会、厨房で作っている利用者の食事を試 食してもらい意見を聞く等、利用者の生活が活性化す る議題も検討して欲しい。消防署等に事業所や利用者 を直接見てもらうことは、避難訓練に現実的な視点が 加わることが期待できる。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃の業務における疑問点などは、松山市にその都度確認す るなどしている。地域包括支援センターとは、空き情報の連 絡や、三津浜地区のグループホーム連絡会への参加により、 情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所を運営している法人は、福祉事業の歴史が長く、行政 からは地域福祉の一環を担うという信頼が厚い。事業所は複 合施設であり、近隣地域には関連の介護保険事業所も数多く ある。そのため、法人全体が行政との関わりが深く、事業所 も利用者のことだけでなく、地域の福祉全般の問題に共に取 組もうとしている。また、市担当者とは、管理者だけでなく 法人理事者や施設長も関わりがあり、信頼関係は堅固である と言える。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束に関する研修に積極的に参加し、身体拘束への意識 を高めるよう取り組んでいる。さらに、「不適切ケア」 チェックシートを活用し、個々の職員が日頃のケアを振り返 り、身体拘束につながるような言動がないように努めてい る。</p> <p>(外部評価) 法人全体で身体拘束ゼロに取り組んでおり、事業所内でも定 期的に勉強会が行われている。特に言葉による拘束について は慎重で、職員は定期的に「身体拘束チェックシート」や 「不適切ケアチェックシート」を活用して日々のケアを振り返 るようにしている。ついつい日常化される声掛けだからこ そ細心の注意を払っている。複合施設の建物の構造上、エレ ベーターにテンキーが導入されている。そのため、職員は利 用者の自由な行動が妨げられないように気を配り、見守るよ うに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加し、どのようなときに虐待が起きるのかを学び、虐待防止に取り組んでいる。虐待につながる不適切なケアについて3ヶ月に一度チェックし、虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について、学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。さらに、ご利用者の権利擁護についての知識を深めるよう取り組んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用申込や契約時に出来るだけ丁寧な説明を行い、その上で、ご利用者、ご家族からの疑問や質問を伺い細かく説明し、ご利用者、ご家族にご理解、納得してご契約いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、匿名でご意見をいただけるようにしている。また、面会時や、電話での連絡のときに、日頃の様子を説明し、ご意見やご要望を伺っている。 (外部評価) 比較的地元出身の利用者が多い事業所であるため、家族等の行き来が多い。管理者は、「本人が目の前にいると言い難い」という気持ちに配慮し、居室のある2階ではなく、1階の多目的スペースで家族と話しをすることもある。「何かありませんか？」だけでは、家族は本音を言えないという状況を考え、家族に寄り添った取組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度ワーカー会やサービス向上委員会を開き、提案などを聞く機会を持つようにしている。職員の意見は、次月の活動や、今後の運営に反映させるようにしている。 (外部評価) 管理者も計画作成担当者も介護シフトに入っている。夜勤はしていないが、介護現場で職員と共に利用者のケアを行っているため、管理者も利用者を肌で感じて介護現場を知ることができ、職員と協働意識を持つことができる。特に、職員と協働意識を持つことで、話し合いの際、職員と同じ立場に立ち、忌憚のない意見交換ができています。食事中、職員と管理者が話し合っている状況が見られたが、利用者の生活を支えている同志という雰囲気を感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回、職員個々の努力、実績を評価し給与などの賃金アップなど、努力が反映される環境や条件が整い、やりがいを持って仕事が出来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間活動計画の中に、内部・外部の研修の予定を入れ、職員が研修を受ける機会を確保し、技術や意識の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が、地域のグループホームとの交流会に参加し、意見交換を行いネットワーク作りに勤めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面談を行いご利用者の困っている事や要望を出来るだけ細かく聞きだせるように努めている。入所後は、こまめな声掛けや、他の入居者との関係作りに関わることで、ホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時や面談の時にご家族が何に対し、どのように困って入所に至ったか、ホームでどういう支援を臨んでいるかに耳を傾け、それに応える努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今まで利用されていたサービスを入所する事で切ってしまうと引き続き利用できるような柔軟な対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の能力に応じ、掃除や、食器の片付け、洗濯物の片付けなどを職員と一緒に頂く事で、共に生活している関係を作るように努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の必要な物品などの買い物を家族様にお願いし、面会の機会を作るようにしている。入所後も、以前から関係のある地域との交流に参加できるようご家族にも協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前からの交流のあったかたがたが、気軽に訪問できるように、ご家族にも協力をお願いし、来所された際には、ご本人と気兼ねなく交流が出来るよう場所の提供や雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 利用者の友人や近隣者が事業所を訪ねて来ると、おもてなしを尽くすことで馴染みの関係の継続を支援している。事業所の近くに住んでいた利用者には、外出の際に自宅に立ち寄り、入居前に囲碁クラブに通っていた利用者には、継続して参加できるよう支援している。また、家族の協力を得てお墓参りに行く等している。事業所では、利用者が新たな馴染みの関係を作ることができるよう、取組みを始めている。	管理者は高齢者の介護経験が長く、利用者にとって事業所自体が馴染みの場になることの必要性を痛感している。しかし、日常の業務を安全に進めることに忙殺され、それを具現化する方法を見出せていない。幸い小規模特養ホームと併設であり、施設全体を大きな長屋と見なし、それを活かした近所付き合いができれば、利用者の馴染の場を広げることになると思われる。利用者が心とむ場となるようにこの事業所ならではの取組みとなり、利用者には新たな人間関係が構築できるよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士で、リビングや廊下のソファで話をされたり、一緒に散歩されたりして係わり合いをもたれている。また、ご利用者様が一人で居る時は、孤立しないよう声掛けしたり、他の方との間にはいるなどの支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人の状態に応じ、特養への移行を支援したり、入院の場合は、見舞いに行くなど、関係を断ち切らないように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から、ご本人やご家族の意向を伺っている。ご本人の意向が把握できない時や、ご家族から特に要望が無い場合は職員間で、どうするのが最も良いか検討し対応している。	
			(外部評価) 「その人らしく」をケアの中心に据え、利用者の思いや意向を把握することに努めている。利用者をよく見ることも重視しているが、利用者同士の会話にそれぞれの思いを発見したことがあり、それ以降は、利用者間接的に見守りながら利用者の理解を深めることも大切にしている。職員が利用者側に立って言葉の意味を考えることで、援助の基本を改めて感じながら利用者理解を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談などでこれまで生きてこられた過程や、職業などの生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り、記録等で本人の一日の過ごし方や、心身の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人やご家族から、今まで困っていた事や要望などをうかがうと共に、職員や、家族以外で関わっていた方からの情報も参考にして介護計画を立てている。</p> <p>(外部評価) 介護計画に関する書類整備やその活用方法などは運営法人の豊富な経験があり整備されている。介護計画作成担当者は、本人や家族の意向を確認し、職員と話し合っって計画を作成している。担当職員は毎月モニタリングを行い、3か月に1回カンファレンスを行い計画の見直しをしている。24時間生活変化シートで、「記載がない時間帯にも問題を見出すようにしている。」と言う管理者には、プロの意識が感じられる。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 24時間シートに本人の様子や行動、心身の状態を記録し、職員間での情報の共有、ケアプランへの反映に活用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) グループホームだけでなく、併設の特養とも連携し、一緒に行事を行ったり、分かれて入所している家族への面会などを行って頂いている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域にある小学校との相互訪問、消防署との避難訓練への参加などを通じ、地域との交流を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族に入所前に医療についての要望を聞き、それ に沿って対応している。以前よりかわりのあった医療機関 にも継続して受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医を継続利用している人や事業所の協 力医に切り替えた人、専門科は別の病院に通院する人等、利 用者の受診形態は様々である。管理者は、病院や家族と情報 を共有しながら、利用者が適切な医療を受けることができる よう支援している。また、協力医は月2回往診して診療を行 う他、24時間緊急体制を取っている。さらに、小規模特別 養護老人ホーム兼務の看護師が常時勤務しており、日常的な 健康管理や緊急時対応を行うため安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームには特養と兼務する看護師がおり、健康面での相談 や、医療機関との間に入ってもらい、適切な医療、看護がう けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院されたケースでは、入院時の医師からの説明を看護師と 管理者が家族とともに聞き、入院後、家族から状況を伺いな がら様子を見て、退院・再入所の準備を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナル対象の方がおられる。早い段階から、ターミナル ケアの方針にそって、家族との週1回のカンファレンスや、 ターミナルケアプランの作成・実施、ターミナルケア記録に よる個別の状況把握、医療機関との連携に取り組み、万一の 場合の対応も決めている。	
			(外部評価) 事業所は、経験豊かな法人が運営しており、信頼も厚く看取 りに対する家族の期待も大きい。事業所には、「看取りに関 する指針」が作成されており、家族の要望に応じて今年初め て看取りを行った。職員は、家族の協力も得ながら、協力 医、看護師と話し合いを重ねて穏やかな最期を看取ることが できた。現在も終末期ケアを行っている利用者がある。事業 所には小規模特別養護老人ホームと兼務の看護師と協力医が 24時間オンコール体制をとっているため、緊急時も適切な 医療を受けることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故、感染症、急変時の対応マニュアルがある。緊急時に適切な対応が出来るよう、確認している。特に感染症対策は、定期的に実地訓練を行い、全員があわてず適切な対応が出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識の高めるように努めている。防災訓練への参加や運営推進会議等の場を通じ、地域の方との連携を図っている。 (外部評価) 避難訓練は、災害時避難対策マニュアルに沿って丁寧に行われている。訓練は消防署立ち合いのもと、小規模特別養護老人ホームの利用者と合同で実施している。地域住民とは、運営推進会議で話し合いを始めている段階であり、今後協働して計画的に実施しようとしている。事業所の隣に消防署があるので、災害対策には恵まれた立地である。消防署から消火訓練に建物を使用させてほしいという要望があり、近々実施される予定である。こうした取組みは、消防署職員に事業所の日常を把握してもらう良い機会であり、万が一の場合の安心感に繋がり、事業所としても期待している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グループホームの理念に「尊厳を大切にすること」が掲げられている。言葉遣いについても、不適切ケアチェックや自己評価チェックシートで定期的に自らを振り返り、誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。 (外部評価) 訪問した時に、リビングには穏やかな空気が流れていて、利用者の日常に安心感があることの証しのように思えた。職員は、利用者に名前呼びかけをしていることが多く、その響きには、利用者との距離を感じさせない心地よいものがある。利用者は、「は～い、何でしょう？」と笑顔で返事をしている。人権保護という堅苦しい言葉ではなく、「大事にしている、されている。」というほのぼのとした人の温もりが感じらる。職員は、定期的に「不適切ケアチェックシート」を使って、利用者の尊厳を損ねるようなケアを行っていないか自己チェックを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝食時の飲み物を希望のものにしたり、10時と15時の飲み物を、本人に確認してからお出しするようにしている。希望を聞く時も「何が良いですか？」と、出来るだけ本人の希望を尊重できるような言葉がけをするように気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各ユニットの目標に「自分らしく」や「その人らしさ」を掲げている。入浴なども、本人が希望しなければ、別の日にするなど、出来るだけ、本人の意思を尊重するように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分用の化粧品を持たれて、お化粧品をしておられる方もおられる。衣類も、本人の好みを出来るだけ尊重しながら、気候や季節にあったものを着ていただけるよう助言を行うようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は厨房で調理しているが、カレー作りや、おやつ作りでは、それぞれの利用者様の能力を生かして参加して頂き、出来るだけ職員はサポートを行うようにしている。 (外部評価) 食事は管理栄養士が献立を作り事業所内の厨房で調理している。栄養管理が十分できていることと、施設内で調理をしているので、出来上がったばかりの料理を味わえるという利点がある。職員も食事時間に利用者と一緒にゆっくり関わることが出来るため、会話を交わしながら和やかな雰囲気、共に食卓を囲んでいる。また、カレーの日等を設けて、週に数回はユニットのキッチンで昼食を作っている。利用者も野菜の皮むきなどを手伝い、利用者の生活にメリハリを付けている。利用者にも職員にも無理のない支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量をチェックして毎日どのくらい摂取できているかを一人ひとり記録し、確認している。食事のペースもそれぞれの方にあわせ、せかしたりする事のないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、きちんと歯磨きが出来るよう支援している。歯磨きをしようとする方には、声をかけて自主的にして頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の訴えや、様子観察を通じ、適切にトイレ誘導が出来、失敗を減らすように努めている。立位や座位保持が出来る方は出来るだけトイレでの排泄を促し、安易にオムツを使用しないようにし、使う時も夜だけにするなど、どうしてもオムツでなければ対応できない方以外は、出来るだけオムツは使わないようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援したいという考えのもと、ユニット内にはトイレが4か所設けられており、歩行状態が不安定な利用者にも容易にトイレ移動ができる構造になっている。また、24時間シートで排泄のパターンを把握し、声掛けをしてトイレ誘導を行っている。夜間は安眠を優先するため、おむつを使用する場合もある。利用者のトータルな生活を視野に入れた排泄ケアができています。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>便秘気味の方には、廊下を歩いたり、散歩をするなどの運動や、適切な水分補給などで、出来るだけ自然な排便を促し、どうしても出ない場合便秘薬を用いるようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>週二回入浴していただくようにし、入浴日は決めてはいるが、本人の体調やその日の気持ちで入浴できない時は、別の人に入って頂くなど、臨機応変に対応し、ゆっくりと入浴していただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週に2回入浴ができるよう支援している。浴室には最新のユニットバスが導入されており、利用者の身体状況（麻痺側）に応じて浴槽自体を動かすことができ、様々な利用者の状態に配慮したバスシステムを選択している。また、小規模特別養護老人ホームには機械浴の設備があるので、家庭浴槽に入れない利用者も安心して入浴することができる。季節感が味わえるよう、ゆず湯や菖蒲湯などを用意して利用者が入浴を楽しむことができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人の様子をみながら、休息をとって頂くなど、体調に合わせた生活リズムを考えて対応している。起こしっぱなし、寝かせっぱなしにならず、夜間の睡眠が確保出来るよう調整を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報提供表などをおき、確認できるようにしている。重要な薬にかんしては副作用について確認し、場合によっては、看護師に確認して飲んで頂き、状態変化の観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の性格や出来る事を把握し、人との関わりや、家事での役割を持っていただき、気分転換や達成感のある生活を送って頂く。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外部のサービス（ヘルパー）を利用したり、ご家族の支援を得て外出していただいている。ホームの行事として、あるいは、入浴の無い日の気分転換に少し遠くへの散歩を支援している。 (外部評価) 事業所の西側道路は車の往来は多いが、北側は通り抜けしている道ではなく、商店街や神社に通じているので、散歩に適している。また事業所の敷地が広いため、屋外に出るだけでも、十分に外気浴を楽しむことができる。職員は、天気の良い日はできるだけ利用者が屋外に出られるように支援している。また、遠出をする際には、福祉車輛を含め併設事業所の車輛を使うことができるので、大きなメリットになっている。	管理者は、職員の勤務調整をしても事業所ができる外出支援には限界があることから、地域にある社会資源を活用して、利用者がより多く外出できるよう支援しようとしている。そのためには、家族の理解を得ることが不可欠であると同時に、管理者自身が地域資源を把握しておかなければならない。日常業務を行いながら家族や地域の関係者との話し合いを持つことは、時間的に困難が予想されるが、利用者の生活の質が上がる取組みであり期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者様や家族様の了解の下、ご自身でもてる方には、お金を所持して頂いている。外出時は各自お金を持ち買い物をして頂き、施設内の自販機などで、ジュースを買って頂いたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族と話がしたいといわれるときは、出来るだけご家族に連絡し話をして頂いている。また、手紙のやり取りも自由にして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日清掃を行い、居心地のよい共同空間作りに努めている。照明の明るさを変えたり、窓を開けるなどして季節を感じていただく工夫をしている。壁のデコレーションも季節に応じて変えるなどしている。</p> <p>(外部評価) 事業所には天候に影響されることなく使える共用空間が3か所ある。リビングとサンルームと多目的ホールで、サンルームはこの事業所独自の空間で、広さ16畳ほどの両ユニット共用スペースになっている。ドアで間仕切られているので、家族等の面会時はプライバシーを守ることができる。前面ガラスの前は海であり、三津の花火大会の時には特等席にもなる。多目的ホールはリハビリや音楽療法等多目的に利用できるスペースになっており、地域交流の場としても活用されている。また、各階にはオゾン換気が完備され、さわやかな環境の中で過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 海が見える部屋でゆっくり過ごしていただいたり、ソファで他のご利用者様と話をしながら過ごしていただいたり、思い思いに自由に過ごしていただいている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に写真を飾ったりアルバムをおくなどして本人が居心地よく過ごせるようにしている。今まで使用していた家具を置くなど、本人が過ごしやすい雰囲気でも過ごして頂いている。</p> <p>(外部評価) 居室には前室があり、洗面台やクローゼットが配されている。居室との仕切りにレースのカーテンを設置し、廊下からは直接居室を覗けないようになっており、利用者のプライバシーへの配慮が感じられる。管理者は「部屋に洗面台があると、女性はお化粧をして出てきます。」と述べ、事業所がそうした空間や時間を大切にしている様子が伺える。部屋のスペースにゆとりがあるので、タンスだけでなくテレビや冷蔵庫等を置いて、利用者がそれぞれ思い思いの空間を作っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、浴室、トイレ、洗面台に手すりをつけ、出来る事を生かせるように工夫をしている。</p>	